

1 知っておこう！ ぼうさい学習のキーワード

げん 減	さい 災	地しんやつなみ、台風などの自ぜんさいがいにはさけられないことが多いので、さいがい起きてしまったことを考えて、そのひがいをできるだけ少なくしようとするくふうが大切になります。
じ 自	じょ 助	いつも先生や家族がいっしょとはかぎりません。自分の安全は自分で守ろうとすることが大切です。
きょう 共	じょ 助	さいがいがおきてすぐは、しょうぼうしょなどの助けは来ません。地いきの人たちみんなて助け合っていくひつようがあります。
こころ 心の	ケア	大きなさいがいにあうと、心にふかいきずができたり体の調子が悪くなったりしてしまいます。それがなおるまでは、まわりの助けと長い時間がひつようです。
ボランティア		自分のきぼうで、ほかの人のやくに立つ活動を行うことをいいます。東日本大震災では、中学生がすすんでボランティアを行いました。

2 よ読んでみよう しらべてみよう

- 『じしんのえほん こんなときどうするの?』 ポプラ社 国崎信江
 - 『ドラえものの地震はなぜ起こる どう身を守る』 小学館 国崎信江/監
 - 地きゅうキッズたんけんたい (地震調査研究推進本部ホームページ)
<http://www.jishin.go.jp/kids/>
 - こどもぼうさいe-ランド (消防庁ホームページ)
<http://open.fdma.go.jp/e-college/eland/>
 - 防災キッズミュージアム (人と防災未来センターホームページ)
<http://www.dri.ne.jp/kids/>
- ※ 図書室にある本もしらべてみましょう。

**3 ひがし に ほん だい しん さい
 東日本大震災のきろく**

平成23年3月11日に、東北地方の太平洋沖でこれまでにない大きな地しんが発生しました。この地しんのひがいを「東日本大震災」とよびます。大地しんは大きなつなみを引きおこし、多くのとうといいのちがうばわれました。わたしたちは、このできごとをけっしてわすれてはいけません。

**1 ひがし に ほん だい しん さい
 東日本大震災でおきた地しんのせつめい**

- いつおきたか 2011年(平成23年)3月11日 午後2時46分
- どこでおきたか 三陸沖 北緯38度 東経143度
- 地しんのかの大きさ マグニチュード9.0
- ゆれの大きさ 震度7(栗原市) 震度6強(宮城野区) 震度6弱(青葉区, 若林区, 泉区) 震度5強(太白区)

**2 せん だい し
 仙台市でひがいにあった人やたても**

2014年(平成26年)9月30日のきろく

- (1) ひがいにあった人
- なくなった人 994名(男性551名, 女性443名)
 - 行方がわからない人 30名(男性17名, 女性13名)
 - けがをした人 2,275名(重傷276名, 軽傷1,999名)
- (2) たてももののひがい
- 全壊 30,034棟
 - 大規模半壊 27,016棟
 - 半壊 82,593棟
 - 一部損壊 116,046棟

ひがし に ほん だい しん さい
 東日本大震災をひきおこした地しんを東北地方太平洋沖地震といっています。